

令和4年度第2回釜石市社会教育委員会議 開催結果

- 1 開催日時 令和5年3月16日（木）13時30分～15時
- 2 会 場 中妻地区生活応援センター
- 3 出席委員 9名
柴田渥委員、吉田千秋委員、蛸島茂雄委員、青木裕信委員、山口邦子委員、鈴木繁委員、石垣和子委員、新田佳世子委員、菊池亮委員
- 4 欠席委員 3名
鈴木崇委員、阿部信太郎委員、吉岡真美委員
- 5 事務局等 19名
高橋勝教育長、小池幸一教育部長、菊池公男市民生活部長、臼澤渉文化スポーツ部長、平野敏也市民生活部次長兼まちづくり課長、藤井充彦文化振興課長兼郷土資料館長、佐々木豊スポーツ推進課長、川畑広恵図書館長、奥村謙治釜石公民館長、小笠原達也平田公民館長、菊池拓朗中妻公民館長、佐藤貴之小佐野公民館長、佐々木利光甲子公民館長、松下隆一鶴住居公民館長、二本松由美子栗橋公民館長、佐々木薫まちづくり課主幹兼生涯学習係長、浦城太郎まちづくり課主任、福館兄祐まちづくり課主事、寺田恵美子統括地域コーディネーター
- 6 傍聴者 0名
- 7 経 過
 - (1) 開会
まちづくり課佐々木主幹から、本会議の委員出席は12名中8名が出席しており、「釜石市社会教育委員会議運営規則」第5条の規定により定足数(半数以上)を満たしていることを告げ、会議の開会を宣言した。（開会宣言後に遅れて1名出席）
 - (2) 教育長挨拶
改めまして、本日は、年度末の大変お忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。
また、委員の皆様におかれましては、日頃より当市の社会教育をはじめ、各種事業にご支援ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。
当市では、学びと実践が循環する生涯学習社会の形成に向けて、市内に8つある公民館を中心に、乳幼児期から高齢期までの各世代を対象に地域の実情に即した事業を実施

しております。このほかにも本年度は市民芸術文化祭や有形文化財公開事業、健康マラソン大会、ラグビーメモリアルイベント、読書活動の推進などを、感染症対策を行いながら実施してまいりました。

残念ながら計画通りに実施できなかった事業もありますが、ここ数年続いております新型コロナウイルス感染症対策も、規制は次第に緩和されつつあります。コロナ禍前のように事業が実施できるようになることを望みつつも、引き続き必要な感染症対策を行いながら、学習の場の確保に努めてまいりたいと存じます。

また、皆様ご存じのとおり、本年度から「地域とともにある学校づくり」の実現に向けて、市内各小中学校でコミュニティ・スクールの取り組みがはじまりました。学校と地域がパートナーとなってともに当事者意識を持ち、学校運営協議会で話し合われた望ましい子どもの姿を、地域学校協働活動などを通じてはぐくんでいく態勢づくりが望まれております。来年度はコミュニティ・スクールを導入して2年目ということで、具体的な動きがみられてくると思われることから、折につけて委員の皆様の協力添えを賜りたく、お願い申し上げます。

少し、話は変わりますがけれども、私が時々見る「博士ちゃん」という番組があります。あの番組を見ると、あそこに出てくる子どもたちは「どうしてこんなにも一生懸命、学んでいるのかな」というふうにもいつも思います。子どもたちの学びの場は学校が中心になっておりますけれども、やっぱりそれだけではないのかなと思っています。学校以外の場でどういうふう子どもたちがいろんなことを学ぶのか、それが子どもたちにとっては非常に大切なことであり、それこそが生きる力になってくるとは思いません。テレビに登場する子どもたちは本当に生き生きと学んで、すごくこれが好きなんだということを心から表現している姿が伝わってきます。ぜひそういう子どもたちの学びの環境を社会の中に作っていただければありがたいというふうに思っています。

最近、子どもたちを取り巻く状況の中でも、よくスマホとかゲーム依存ということが言われます。その大きな理由が何かと言うと、子どもたちにゲームとかスマホ以外の楽しみ、夢中になれるものが周りに少ないんじゃないかな、と。例えばサッカーとか野球とかスポーツに夢中になっている子、ゲーム以外に興味関心があって、それを一生懸命やっている子は、おそらくゲーム依存とかスマホ依存とかにはなっていないんじゃないかな、というふうに思います。本当にスマホとかゲームとかは子どもたちにとって魅力あるものになっている。それにのめり込むとなかなか自分ではやめられなくなってしまうのだと思います。それをどう変えていくかを考える時には、子どもたちの周りにそれ以外の楽しいもの、スマホ以外にもこんないいものがあるんだぞ、というところを子どもたちが実感してそれを体験するということが大切じゃないかな、というふうに思っています。そういう意味で、ここにお集まりの皆さんには、ぜひ、学べる、こんな楽しいことがあるんだという実感できるものに子どもたちを触れさせていただきたいと思えます。それが子どもたちが大人になった時も、自分でいろんなものに興味を持って、学び続けるということにつながるんじゃないかなと思っています。それが本市が目指す多様な学びに繋がっていくんじゃないかなというふうに思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。

本日は、本年度の事業報告および次年度の事業計画概要等について協議をいただくこととしております。令和5年度の事業をより良いものにしていくため、限られた時間の中ではございますが、委員の皆様から忌憚のないご意見、ご提言を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。この後の会議、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 社会教育委員会議議長及び副議長選出

事務局一任の声があったことから、事務局案として議長に柴田委員、副議長に吉田委員と提案したところ、異議なく選任された。(両名とも再任)

(4) 社会教育委員会議議長挨拶

皆様どうもご苦労様です。本日もよろしくお願いいたします。今日は公民館のほうからも参加していただいて、ありがとうございます。やっと薄らいできたコロナウイルスの発生状況なんですけど、ほっとしてみたり、また、もしかしたらという不安に駆られたり、複雑な思いもありますけれども、社会教育の活動がこの春とともに、新たにまたいろいろとできるな、という期待感を込めて。私たちは地域で活動をしていきたいと考えているところです。

過日、釜石市の防災避難訓練が行われました。私は時々、防災のほうの話をしてしまうのですが、皆様の地域ではいかがだったでしょうか。今日は公民館の皆さんも来ておりますけれども、避難訓練の状況を読み取りながら、これからの避難訓練の在り方をやっぱりみんなで考えていったほうが良いのかな、というふうな思いで今日はお話をさせていただきます。

かつて大森房吉さんという方が、日本で最初の震度計を作りました。それから、今村明恒さんという方は、関東大震災の予測をした人で、知っている方も大勢いらっしゃると思います。しかし、この人たちの時代に欠けていたものは情報発信と情報の共有だったと思います。現在、私たちは国のほうから、そして県、釜石市のほうからも地震による津波や災害へのきめ細やかなシミュレーションが発表されておりますが、しかし、この予測、シミュレーションに対して各地域で暮らす私たちには情報共有が届いているのでしょうか。それから、情報は届いているけれども対策への対応と防災への安全、共有はまだまだじゃないかな、というふうに感じております。皆様のお考えで、それぞれ防災に対する思いを地域で深めていければうれしいな、と思います。本日はこのような場ではありますが、あいさつに代えさせていただき、皆様にちょっと一言お話をさせていただきました。ありがとうございます。

(5) 協議（議長の進行により協議）

①令和4年度 釜石市生涯学習事業の実施状況について

②令和5年度 釜石市生涯学習事業計画の概要について

協議資料(1)及び(2)に基づき、事務局(各担当課長、各公民館長、図書館長)が説明し、承認された。

③社会教育関係団体に対する令和4年度補助金の交付状況について

協議資料(3)に基づき、事務局(まちづくり課主幹)が説明し、承認された。

④その他

特になし

(6) その他

特になし

(7) 閉会 15時

事務局から閉会を宣言した

8 委員からの発言・意見

(A委員)

コミュニティ・スクールのことでもちょっとお聞きしたいんですけども、地域の進み具合というか、今の様子をお聞きしたいというところと、もう一つは、今の公民館の報告を聞いて、皆さん本当に努力をされているんですが、なかなか人が集まってこないといいますが、そこはすごく分かります。私もちょっと別な機会のときに、足がないというか、行きたくてもバスもないし、かといって若い人はまた別な何かがある。買い物なんかも向こうから来てくれるというのは少なくなったという声を聞きました。高齢化だし、若い方も働いているからなかなか行きたくても行けないという話もあって。だから、今の発表で公民館の人たちもご苦労をしているんだろうな、というのがよく分かります。何とかしたいといろいろと工夫をしているんでしょうけれど、そういった面での支援とかあるのかな、と感じました。

(小池教育部長)

学校運営協議会を設置した学校がコミュニティ・スクール設置校という形になりまして、今年度、全部の学校でコミュニティ・スクール設置に至ったということです。学校の経営方針もありますけれども、地域に開かれた学校をどう推進していくかということを経営の皆さんを巻き込んだ形で、忌憚なく話す場と考えていただければ結構なんです。実際はそういう協議する場というのもありますけれども、それとは別に地域学校協働本部というのもあります。地域の人材を活用したりとか、地域にどんなお宝があるのかとか、そういったものが把握できていない部分はまだある可能性がありますので、地域の方々の知見とか知恵をこういった中で拾い上げながら子どもたちにそれを提供していくという形での推進体制かな、と。それが回ってくれば地域の中での開かれた学校になっていく、子どもたちにいろんな体験活動を提供できる、そういった効果が生まれてくれば一番いいと、これの目指すところかな、と感じております。

(平野市民生活部次長兼まちづくり課長)

今日は唐丹公民館長が来ていないんですが、唐丹というのは、ご存じのとおり町内各地に

集落が点々としておりまして、小白浜というところになかなか集まることができないというのが課題となっています。それで、今年度は6地区で8回、公民館のほうが移動して、移動公民館というのをやってみたところです。何をやったかという、応援センターの機能を持って行って、納付書で税金を納めたり、健康相談をしたり、軽い体操をしたりとか、そういうことをどの程度できるかということをやったら、遠くて行けないという人たちの参加があったということで、来年度も引き続きそういったことをやっていこうという話がありますし、橋野のほうでは、横内の公民館というところで、ポッチャというスポーツがあるんですけど、そういうことをやったりということがあります。各地域で唐丹なんかはそうなんですけれども、100歳体操であるとか、できる範囲でやっていきたいと思いますという活動になっているようです。

(B委員)

今、各公民館から事業報告、活動報告がありました。私の印象では合同での取り組み、2つ3つの公民館が合同で取り組んでいるのが多くなってきたという印象があります。非常にいいことだな、とっております。一つの公民館だけではなかなか人が集まらないとかそういう問題があって、2つ3つにすれば2倍3倍の人数が集まって、内容もすごくよくなっているという感じがしました。単独も必要ですけれども、今後も合同での取り組みも考えていく活動をしてほしいな、と思います。

あとは各公民館の利用数が、3年前のコロナ発生から始まって、ウィズコロナの中での利用数が減ったりしてきていました。令和5年度からはアフターコロナということで、少しは活動、利用者が増えてくるのかな、という思いがあります。数字にこだわるわけではないんですけども、開かれた公民館、明るく入りやすい公民館、雰囲気の良い公民館づくりに頑張ってください、利用者の増を目指していただきたい。最悪でも、前年度同レベルの利用を目標に、減ることのないようにそういった公民館づくりを目指して行ってほしいとおります。

それから、スポーツ推進課長さんがちょっと触れていましたけれども、8つの公民館にポッチャを用意したという話で、令和4年度の公民館対抗ニュースポーツ交流大会は残念ながら直前で中止になりましたが、来年度は新しい種目ポッチャを採用して、大会を開催することに決定しました。各公民館においては、ぜひポッチャの活動を頑張ってください、大会に向けて練習会を行っていただきたいと。もし必要であれば、派遣要請があればスポーツ推進委員が指導に行きたいと思しますので、遠慮なく申し出ていただきたいとおります。

(C委員)

コミュニティ・スクールの話が出ましたけれども、中学校でも今年度学校運営協議会を立ち上げました。地域人材の活用ということも一つですし、学校を中心として地域の方々の横のつながりを広げるということも重要なところなのかな、と。来年度以降、避難訓練を土曜日か日曜日を登校日にして、地域の方々の参加も促すような形のものを計画しております。

あと、この間、第2回の学校運営協議会を開催したんですけども、来年度の運営方針については、本当に忌憚のないご意見をいただいて、本当にありがたいなと感じました。これ

からの学校は、地域とともにやっていくことが大切だな、と本当に感じております。先進的に進めている大槌町などもありますので、そういうところを参考にしながら、どんどん釜石も学校を通じて、地域の横のつながりとかを広げていきたいと思っておりますし、児童生徒がいろいろな体験ができるんじゃないかな、とっております。まだ始まったばかりですので、これから各校、校長同士で意見交換をしながらお互いの活動を参考にしていこうと思っております。そういう状況であります。

(高橋教育長)

コミュニティ・スクールのことが出ました。これは教育委員会で進めているところですが、各学校には、コミュニティ・スクールの仕組みを使って、防災教育を進めてほしいと願っているところです。今年度は各学校でも組織を作って、話し合いが中心となって、今後どのような活動をしていくかというところが中心になったと思いますが、次年度からは具体的な活動をしてほしいと願っているところです。

その中の一つの活動として防災の取り組みということで、大平中学校さんのように避難訓練を一緒にやるという学校もあれば、防災に関する学習を一緒にやるとか、それぞれの協議会の中で形態はさまざまだと思いますが、いずれにしても防災の取り組みを地域と一緒にやるというところを各学校にはお願いしているところです。それ以外の活動も当然できるところでやってもらうというのはその通りですけれども、まず、始まったばかりですので、あれもこれもとならないで、一歩一歩少しでもいいものにしていければいいなと思っております。

それから、今までも学校と地域はいろんな活動を一緒にしてきたんですね。じゃあ、コミュニティ・スクールは何が違うのかということなんですが、これまでは学校のいろんな活動に学校がお願いをして、地域の方々をお願いされたことに協力するからというふうなところだったと思うんです。そうではなくて、学校と地域がともに同じ目線で子どもたちを育てていくためにはどうすればいいかということを考えるということと、人口が減ったりして活気がなくなっている中で、学校の活動に地域の方々が主体的に関わってくださることによって、地域の方々も元気になっていただければいいな、そして地域の活性化に少しでもつながればいいな、ということなんです。コミュニティ・スクールが進んでの理想な形は「地域のほうでこういうことをやりたいから学校はどうですか」と。そういうふうな形になって、一緒にできるような活動になれば、さらに学校を中心として、地域と学校が一緒になって、子どもたちを支えていく、育てていくというふうなことが出てくるんじゃないかなと思います。ぜひ、そういうふうな形を目指していきたいな、と思っております。よろしく願います。

(柴田議長)

今、子どもの出生率が非常に少ないということが大きな問題になっていますけど、ぜひ、単一の町内会や地域だけではなく、学校全体で一つの課題に取り組む姿勢を学校側も持つべきですし、地域も持つべきですし、その辺はこれからの活動の在り方だと思います。そのために社会教育委員であることをしっかりと受け止めてこれからのことを考えていただきたいな、と思います。